

# KIT サイエンス シティ プロジェクト



## ●プロジェクトリーダー

青木克比古（基礎教育部 数理工教育研究センター 教授）

## ●プロジェクトメンバー

三嶋 昭臣（基礎教育部 数理工教育研究センター 教授）

中村 晃（基礎教育部 数理工教育研究センター 教授）

高 香滋（基礎教育部 数理工教育研究センター 准教授）

田中 忠芳（基礎教育部 数理工教育研究センター 准教授）

## 「わかる喜び」を地域で共有

「KIT サイエンス シティ プロジェクト」は、地域の自治体や企業と共同して、技術と文化を発展させる基礎をつくる教育活動です。核となる「物理プロジェクト」および「理工学基礎プロジェクト」では、この分野を専攻する学生や教職を目指す学生らが中心となり、金沢市、野々市市、白山市で学びの輪を広げています。

教育活動で欠かせないのは、「わかる喜び」です。わかる授業を目指す数理工教育研究センターの教職員が、活動の中心を担う学生の支援にあたります。

計画しているのは、以下の地域志向の教育活動です。

- ①地域の小・中・高校生に科学の面白さを伝え、科学情報を発信できる人材の育成を図ります。具体的には、科学について気軽に語り合う「サイエンス カフェ」を定期的で開催し、地域の学びの拠点を築きます。また、本学で実施する「基礎物理」の授業の発表会を地域の中・高校生や市民にも公開します。
- ②「自ら考え行動する技術者を育成する」教育目標の実現のため、課外活動の場を設けます。地域の幅広い世代を対象に開講する、科学の基本能力を高める「科学リテラシー講座」のほか、学生が制作した「線香の煙の観察」などの科学実験コンテンツを使い、地域の中学校や高校で、生徒らとともに学びを深める活動を行います。
- ③理科の教職を目指す学生に「理科教育力」向上につながる実践の場を提供します。特にゼミでは、新たなアイデアを生み出す集団発想法（ブレインストーミング）を導入し

て学生の指導力向上を図ります。また、「高大連携数理工教育研究会」のネットワークを生かし「理科教育法I・II」の授業を通じて、教育現場での実践力を高めます。

## 物理コンテストに石川から多数が参加

中・高校生を対象に全国規模で実施する物理コンテスト「物理チャレンジ」で、石川県の参加者数は全国屈指です。平成17年から始まった同コンテストの参加者数は、年々増加しており、昨年は1400名に達しました。物理プロジェクトを担当する田中忠芳は、同コンテストを実施する「物理オリンピック日本委員会」の中心的メンバーでもあります。

課題は、第1チャレンジの参加者から100名が選抜される第2チャレンジへ進む石川県勢が、ごくわずかなことです。見方を変えれば、石川県の数物系の科学教育力は、十分な伸び代があるともいえます。

本プロジェクトは、北陸新幹線金沢駅開業を追い風に、一気に距離が縮まる首都圏や地域の関係機関と連携しながら、石川県の科学教育の改善策を模索し、学生とともに地域の学びの輪をさらに拡充することを目指します。

本プロジェクトにて実施する以上のプログラムにつきまして、関心・興味をお持ちの方はぜひ、ご参加ください。

